

抗血栓療法中に発症した脳出血の実態と対策の検討

■ 研究の対象となる方

2013年4月～2021年3月に当院で脳出血と診断され治療を受けられた方

■ 目的・方法

脳梗塞の再発防止、心房細動、冠動脈ステントやステントグラフト、脳動脈瘤コイル塞栓術のような治療後など、いろいろな疾患や治療後において、私たちは抗血栓薬（いわゆる血をサラサラにする薬）を内服することが多くなりました。これらの抗血栓薬は血管が詰まる病気を予防する効果がありますが、一方では脳出血や消化管出血など、出血性の合併症を起こす危険性もあります。特に脳出血の場合は出血が大きく、また治療を施しても止血が難しいため、通常の患者よりも寝たきりになる可能性が高いといわれています。救命のためやむをえず手術を行うこともありますが、手術が安全で有効な手段となっているかについては、今まで報告が少なくわかっていません。

近年、一部の抗血栓薬（ワルファリン）に対して、超短時間で血のサラサラを元に戻す薬（中和薬）が開発され、出血増大を防止する効果があり、また手術の安全性を高めている可能性があります。これもまとまった報告がありません。

私たちは過去に脳出血で入院加療された患者様の情報を集めて解析し、以下の点について結果を見たいと思っています。

- 1) 抗血栓薬を内服している患者様の脳出血がどのようなものか（実態）
- 2) 抗血栓薬に伴う脳出血に対する手術は安全で有効か（手術の妥当性）
- 3) 抗血栓薬に対する中和薬は効果があるか（新薬の有効性）
- 4) 抗血栓薬に伴う脳出血の患者に対して、内服再開が安全かどうか

調査は、過去に診療の中で得られたカルテ内の情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。収集した情報は個人情報を削除し、解析・検証を行います。

■ 実施期間

2022年2月3日～2023年03月31日

■ 研究に使用する情報

基本情報	年齢、性別、身長、体重、既往歴、喫煙歴、飲酒歴、服薬情報
入退院情報	入院経路、入院期間、ICU再入室の有無、転帰
診療情報	血液検査、CT検査情報、手術情報、リハビリテーション実施内容、合併症の有無
手術情報	術式、手術時間、出血量、周術期合併症、

など

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。また、本研究の成果は学会等での公表を予定しておりますが、個別にご説明することも可能です。いずれも下記へお申し出下さい。

試料や情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 脳神経外科 部長 山城重雄（研究責任者） 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
------------	---

以上